

# 出口雅久 教授 略歴・主な業績

## 略 歴

### 略 歴

- 1959年 7月 東京都新宿区に生まれる
- 1978年 3月 東京都立目黒高等学校卒業
- 1983年 3月 中央大学法学部法律学科卒業
- 1983年 4月 ドイツ・フライブルク大学留学（～1986年 8月）
- 1988年 3月 慶應義塾大学大学院法学研究科前期博士課程修了
- 1988年 3月 法学修士（慶應義塾大学）
- 1988年 7月 ドイツ学術交流会（DAAD）修学金給付生として  
ドイツ・フライブルク大学留学（～1991年 3月）
- 1991年 3月 法学博士（ドイツ・フライブルク大学）
- 1994年 8月 アレキサンダー・フォン・フンボルト財団研究員として  
ドイツ・フライブルク大学法学部にて在外研究（～1995年 9月）
- 2002年 4月 ハーバード大学ロースクール客員研究員（～2002年 6月）
- 2002年 7月 ワシントン大学ロースクール客員研究員（～2002年 9月）
- 2007年 5月 アレキサンダー・フォン・フンボルト財団研究員として  
ドイツ・フライブルク大学法学部にて在外研究（～2007年 7月）
- 2007年 8月 ケルン大学法学部客員研究員（～2007年 9月）
- 2010年 6月 中国人民大学法学院客員研究員（～2010年 7月）
- 2015年 5月 アレキサンダー・フォン・フンボルト財団研究員として  
ドイツ・レーゲンスブルク大学法学部にて在外研究（～2015年 7月）
- 2019年10月 ストラスブルク大学法学部客員研究員（～2019年11月）

### 職 歴

- 1989年 4月 フライブルク大学法学部助手  
ドイツおよび外国民事訴訟研究所助手〔兼務〕（～1991年 3月）
- 1991年 4月 立命館大学法学部助教授（～1999年 3月）
- 1999年 4月 立命館大学法学部教授（～現在に至る）
- 2016年 9月 国立台湾大学法律学院客員教授（1週間集中講義）

2018年12月 台湾国立政治大学客員教授 (1 週間集中セミナー)

\*上記のほか、龍谷大学法学部などで非常勤講師として勤務する。

(学内役職歴)

1998年 4 月 立命館大学国際教育・研究機構副機構長 (～2000年 3 月)  
2001年 4 月 立命館大学法学部副学部長 [教務担当] (～2002年 3 月)  
2003年 4 月 立命館大学国際教育・研究機構副機構長 (～2005年 3 月)  
2005年 4 月 立命館大学法学部副学部長 [企画担当] (～2006年 3 月)  
2008年 4 月 立命館大学評議委員会副議長 (～2010年 3 月)  
2009年 4 月 立命館大学法学部副学部長 [大学院担当] (～2010年 3 月)

所属学会

日本民事訴訟法学会

Wissenschaftliche Vereinigung für Internationales Verfahrensrecht e.V. in  
Deutschland (ドイツ国際手続法学会)

International Association of Procedural Law (国際訴訟法学会・IAPL)

日本公証法学会

国際法協会日本支部

日独法律家協会

DAAD 友の会

日本フライブルク・アルムニ会

フライブルク大学アルムニ会

日本・西フンボルト会

学術活動・社会活動等

2001年 4 月 京都簡易裁判所・同地方裁判所 調停委員 (～2005年 3 月)  
2005年 6 月 日本公証法学会理事 (～現在に至る)  
2006年 5 月 日本民事訴訟法学会国際交流委員 (～2013年 5 月)  
2007年 9 月 国際訴訟法学会副理事長 [アジア担当] (～2015年 5 月)  
2007年11月 京都弁護士会懲戒委員 京都弁護士会懲戒委員 (～2011年 3 月)  
2011年 1 月 京都弁護士会弁護士資格審査委員会委員 (～2015年 3 月)  
2012年 5 月 司法試験審査委員会審査委員 [民事訴訟法] (～2012年 9 月)

出口雅久教授 略歴・主な業績

2013年 4月	関西中四国幹事校連絡協議会代表補佐（～2015年 3月）
2014年 4月	日本フライブルク・アルムニ会会長（～現在に至る）
2015年 5月	国際訴訟法学会名誉副理事長（～現在に至る）
2016年 7月	フライブルク大学アルムニ会理事〔アジア代表〕（～現在に至る）
2019年 9月	DAAD 友の会副会長（～2024年 4月）
2021年12月	ドイツ学術交流会（DAAD）奨学金選考委員

受 賞

2002年 2月	日独文化関係促進協会賞（JaDe-Preis）受賞（在ドイツ・ケルン市）
2006年 6月	ドイツ連邦共和国功労十字勲章小綬章受勲（das Verdienstkreuz am Bandes Verdienstordens der Bundesrepublik Deutschland）

主な業績

単 著

Die prozessualen Grundrechte im japanischen und deutschen einstweiligen Rechtsschutz in Zivilsachen (Verlag Peter Lang) (1992年)

編 著

Masahisa Deguchi Editor, Effective Enforcement of Creditors' Rights (Springer) (2022年)

Demokratie, Rechtsstaatlichkeit und Menschenrechte: Masahisa Deguchi Hrsg., Springer Verlag p.1-183 (2025年)

共編・共著

『消費者法の比較法的研究』〔立命館大学人文科学研究研究所研究叢書 9号〕

長尾治助、山根裕子、堀田牧太郎、竹濱修、鹿野菜穂子と共編  
(有斐閣) (1997年 8月)

Rechtsfragen alternder Gesellschaften und Rechtsfragen des Umweltschutzes:  
Sumio Okawa, Peter Hanau と共編, Ritsumeikan Law Review No.16 (2000年  
3月)

The Reception and Transmission of Civil Procedural Law in the Global Society: Legislative and Legal Educational Assistance to Other Countries in Procedural Law: Marcel Storme と共編著 (Maklu Publishers) (2008年)

『民事訴訟法の継受と伝播』

松本博之と共編  
(信山社) (2008年2月)

Festschrift für Dieter Leipold zum 70. Geburtstag: Rolf Stürner, Hiroyuki Matsumoto, Wolfgang Lüke と共編著 (Mohr Siebeck) (2009年)

„Grundrechtsschutz in der Rechtspraxis und -dogmatik — Aspekte aus dem europäischen und asiatischen Verfassungs-, Zivil- und Strafrecht“: Rupert Scholz, Hans — Peter Marutschke, Wolfgang Lüke, Robert Esser と共編  
Ritsumeikan Law Review No.35 (2017年10月)

Europe and Asia as a Legal Area for Fundamental Rights: Kimio Yakushiji と共編 (Springer) (2023年5月)

#### 共 編 訳

『憲法と民事手続法』

カール・ハインツ・シュワーブ、ペーター・ゴットヴァルト、マックス・フォルコンマー、ペーター・アレンス著 石川明と共編訳  
慶應義塾大学法学研究会叢書46号 (1988年3月)

#### 論 文

「強制執行における基本権の保障に関する考察」

慶應義塾大学大学院法学研究科論文集30号 69頁 (1989年11月)

「ドイツ保全実務における保護書面の発展」

法学研究63巻11号 91頁 (1990年11月)

“Die kurze Bericht über die neue Regelung des einstweiligen Rechtsschutzes in Japan”: Ritsumeikan Law Review No.7 p.33 (1992年3月)

“Das mißbräuchliche Ablehnungsgesuch im Zivilprozeß”: Dieter Leipold  
(Hrsg.), Gedächtnisschrift für Peter Arens (C.H.Beck) S.31 (1993年3月)

「債権の強制的実現——民法と手続法との関係」

石田喜久夫、乾昭三、甲斐道太郎、中井美雄、中川淳編  
『債権総論』〔青林法学双書〕  
(青林書院) 93頁 (1993年10月)

「相殺権の行使」

石川明、田中康久、山内八郎編  
判例タイムズ830号『破産・和議の実務と理論』  
190頁 (1994年1月)

「上 訴」

木川統一郎、中村英郎編  
『民事訴訟法』〔青林法学双書〕  
(青林書院) 302頁 (1994年2月)

「ドイツ訴訟法における秘密手続の動向」

木川統一郎博士古稀祝賀「民事裁判の充実と促進下巻」  
(判例タイムズ社) 58頁 (1994年5月)

「ドイツにおける弁護士和解」

立命館法学234号1頁 (1994年9月)

“Die sog. bestellte Partei und der repräsentative Prozeß im japanischen Recht”:  
坂本恵三と共著, DIKE International No.2 p.149 (1995年2月)

「仮処分命令と仮処分執行」

内田武吉編著『民事執行・保全法要説』  
(成文堂) 185頁 (1995年5月)  
内田武吉編著『民事執行・保全法要説 第2版』  
(成文堂) 193頁 (1999年4月)

“Die „bestellte Partei“ als Erweiterung der Prozeßführungsbefugnis”:  
Ritsumeikan Law Review No.12, p.41 (1996年3月)

- 「上告受理の申立て」  
法学教室192号 35頁 (1996年9月)
- 「訴訟における秘密保護」  
ジュリスト1098号 68頁 (1996年10月)
- 「民事訴訟における秘密保護手続」  
立命館法学249号 300頁 (1997年3月)
- 「民事訴訟における秘密保護手続の動向」  
民事訴訟雑誌43号 191頁 (1997年4月)
- 「最高裁判所に対する上告」  
三宅省三、塩崎勤、小林秀之編集代表  
『新民事訴訟法体系 理論と実務 第4巻』  
(青林書院) 48頁 (1997年9月)
- 「債務不存在確認訴訟の機能と確認の利益に関する若干の考察」  
立命館法学256号 398頁 (1998年3月)
- 「新民事訴訟法の施行と税務訴訟」  
三木義一と共著  
税53巻3号 4頁 (1998年3月)
- 「企業秘密の保護(公開の制限、閲覧制限など)」  
鈴木重勝、上田徹一郎編  
『基本問題セミナー 民事訴訟法』  
(一粒社) 279頁 (1998年6月)
- 「債務不存在確認訴訟の訴訟物と判決効」  
青山善充、伊藤眞編  
ジュリスト増刊『民事訴訟法の争点〔第3版〕』  
152頁 (1998年9月)
- 「日独における公証人損害賠償訴訟の現状  
——予防司法を担う公証人のグローバル・スタンダードの素描」  
公証法学28号 43頁 (1999年6月)
- “Reform of Civil Procedure Law in Japan”: Ritsumeikan Law Review No.17  
p.15 (2000年3月)

“Zum neuen Gesetz über die Anerkennungshilfe des ausländischen Insolvenzverfahrens”: Gerhard Lüke, Takehiko Mikami, Hanns Prütting (Hrsg.) Festschrift für AKIRA ISHIKAWA zum 70. Geburtstag, (Walter de Gruyter) S.79 (2001年)

「EU 消費者保護とドイツ団体訴訟の新展開」

立命館法学271・272号 570頁 (2001年2月)

「民事訴訟における第一審強化策

——ドイツ連邦司法省民事訴訟法改正草案を素材として——」

吉村徳重先生古稀記念論文集『弁論と証拠調べの理論と実践』

(法律文化社) 54頁 (2002年1月)

「集团的権利保護手続に関する比較法的考察」

石川明先生古稀祝賀『現代社会における民事手続法の展開 上巻』

(商事法務) 473頁 (2002年5月)

„Gegenwärtige Überlegungen zur Reform des Zivilprozessrechts in Japan —

Wie weit kann man den Zivilprozess beschleunigen?“. István Varga, Daisy

Kiss, Magister artis boni et aequi (dedikált példány), STUDIA IN HONOREM

NÉMETH JÁNOS (ELTE Eötvös Kiadó) p.149 (2003年)

“Die Aufnahmeprüfung für das Rechtsstudium in Japan, dargestellt am

Beispiel der Ritsumeikan-Universität in Kyoto”: JURA 25. Jahrgang Heft

3/2003 S.210 (2003年3月)

「ドイツにおける団体訴権の経験とEUの消費者保護

——日本への示唆と議論の論点——」

国民生活研究44巻2号1頁 (2004年9月)

“The recent legislation on the consumer group action in Japan”: The recent

tendencies of development in civil procedure law— between East and West:

International conference to celebrate the 100th anniversary of the birth of

Professor Jonas Žėruolis (Justitia 2007, Vilniaus Universitetas) p.123 (2007年

4月)

“Legal Education for Global Citizen Lawyers in the Global Society”: Masahisa Deguchi and Marcel Storme The Reception and Transmission of Civil Procedural Law in the Global Society: Legislative and Legal Educational Assistance to Other Countries in Procedural Law (Maklu Publishers) p.15 (2008年 1 月)

「グローバル社会における地球市民法曹のための法学教育」

松本博之、出口雅久編『民事訴訟法の継受と伝播』  
(信山社) 253頁 (2008年 2 月)

「二〇〇六年国際訴訟法学会・京都大会について」

小島武司先生古稀祝賀『民事司法の法理と政策 下巻』  
(商事法務) 1067頁 (2008年 8 月)

“Vorprozessuale Informationsbeschaffung und Streitbeilegung”: Rolf Stürner, Hiroyuki Matsumoto, Wolfgang Lüke, Masahisa Deguchi (Hrsg.) Festschrift für Dieter Leipold zum 70. Geburtstag (Mohr Siebeck) S.555 (2009年 2 月)

“Das Spannungsverhältnis im Zivilprozessrecht”: Peter Gottwald (Hrsg.) Recht und Gesellschaft in Deutschland und Japan: Aktuelle Probleme und Spannungen im Bereich des Verfassungsrechts, Strafrechts, Schuldrechts, Familienrechts und Zivilprozessrechts (Carl Heymanns) S.125 (2009 年 3 月)

「日本民事調解制度」(丁相順翻訳)

Ritsumeikan Law Review No.26 p.243 (2009年 3 月)

「提訴前情報証拠収集制度と紛争解決に関する若干の考察」

大阪市立大学法学雑誌55巻 3・4 号 158頁 (2009年 3 月)

「訴訟物概念の機能」

伊藤眞、山本和彦編  
ジュリスト増刊『民事訴訟法の争点』  
112頁 (2009年 3 月)

“Das gerichtliche Geständnis im Verhandlungsvorbereitungsverfahren in Japan“:  
Jens Adolphsen, Joachim Goebel, Ulrich Haas, Burkhard Hess, Stephan  
Kolmann, Markus Würdinger (Hrsg.) Festschrift für Peter Gottwald zum  
70. Geburtstag (C.H. Beck) S.89 (2014年)

「弁論準備手続における自白の取扱い」

松本博之先生古稀祝賀論文集『民事手続法制の展開と手続原則』  
(弘文堂) 297頁 (2016年 4月)

“Die doppelte Aktionärsklage in Japan“: Burkhard Hess, Klaus J. Hopt, Ulrich  
Sieber, Christian Starck Unternehmen im globalen Umfeld - Aufsicht,  
Unternehmensstrafrecht, Organhaftung und Schiedsgerichtsbarkeit in  
Ostasien und Deutschland - fünftes Internationales Symposium der Fritz  
Thyssen Stiftung in Köln (Carl Heymanns) S.423 (2017年)

「欧州連合 ADR とドイツ新消費者紛争解決法の動向」

上野泰男先生古稀祝賀論文集『現代民事手続の法理』  
(弘文堂) 689頁 (2017年 4月)

“Das flexible Streitbeilegungsmodell zwischen Zivilprozess und ADR in  
Japan“: Moritz Brinkmann, Daniel O. Effer-Uhe, Barbara Völmann-  
Stickelbrock, Sabine Wesser, Stephan Weth (Hrsg.) Dogmatik im Dienst  
von Gerechtigkeit, Rechtssicherheit und Rechtsentwicklung, Festschrift für  
Hans Prütting (Carl Heymanns) S.821 (2018年 2月)

「強制執行における事案解明と効果的な権利保護」

加藤哲夫先生古稀祝賀論文集『民事手続法の発展』  
(成文堂) 235頁 (2020年 3月)

“Sachaufklärung und effektiver Rechtsschutz in der Zwangsvollstreckung“:  
Christoph Althammer und Christoph Schärtl (Hrsg.) Dogmatik als  
Fundament für Forschung und Lehre Festschrift für Herbert Roth zum 70.  
Geburtstag (Mohr Siebeck) S.885 (2021年)

“Die Rolle des Notars als vorsorgender Rechtspfleger in Japan”: Timo Fest und Christian Gomille (Hrsg.) Festschrift für Johannes Hager zum 70. Geburtstag am 09.07.2021 (Duncker & Humblot) S.113 (2021年)

「オンライン紛争解決手段 ODR の現状と課題」

同志社法学73巻6号29頁(2021年12月)

“Aktueller Stand und Probleme der Online Dispute Resolution (ODR)”: Sebastian Kubis, Karl-Nikolaus Peifer, Benjamin Raue, Malte Stieper (Hrsg.) Ius Vivum: Kunst – Internationales – Persönlichkeit, Festschrift für Haimo Schack zum 70. Geburtstag (Mohr Siebeck) S.554 (2022年)

“Fact Clarification and Effective Legal Protection in Civil Enforcement Law in Japan”: Masahisa Deguchi Effective Enforcement of Creditors’ Rights (Springer) p.71 (2022年)

“Die Gültigkeit der Schiedsvereinbarung im Bauvertrag in Japan”: Georg Bitter, Hans Haarmeyer, Gerhard Pape (Hrsg.) Festschrift für Markus Gehrlein zum 65. Geburtstag (Carl Heymanns) S.93 (2022年8月)

Current Status and Problems of Online Dispute Resolution (ODR): Antonio do Passo Cabral, Daniel Mitidiero, Paulo Henrique dos Santos Lucon (ed.), Artificial Intelligence and its Impacts on the System of Civil Justice: IPAL On-Line Conference 2021 (tomson reuters brasil conteúdo e tecnologia Ltda) p.164 (2023年)

### 判例評釈

「訴訟物——移転登記請求と抹消登記請求」

東京地裁昭和63年12月20日判決

別冊ジュリスト115号『民事訴訟法判例百選Ⅱ』

298頁(1992年2月)

別冊ジュリスト146号『民事訴訟法判例百選Ⅱ〔新法対応補正版〕』

310頁(1998年3月)

「動産差押えと債務者の占有」

最高裁昭和34年8月28日第二小法廷判決

別冊ジュリスト127号『民事執行法判例百選』  
132頁（1994年5月）

「仮執行宣言について猶予期間が定められた事例」

広島地裁平成6年12月19日判決

私法判例リマークス14号 130頁（1997年3月）

「破産により特別先取特権とされる商事留置権と他の担保権との優劣」

東京高裁平成10年11月27日決定

別冊ジュリスト163号『倒産判例百選〔第3版〕』  
130頁（2002年9月）  
別冊ジュリスト184号『倒産判例百選〔第4版〕』  
108頁（2006年10月）

「占有の訴えと本権の訴え」

最高裁昭和40年3月4日第一小法廷判決

別冊ジュリスト169号『民事訴訟法判例百選〔第3版〕』  
84頁（2003年12月）

「債務の履行を求める反訴が提起されている場合における当該債務の

不存在確認を求める訴えの確認の利益を否定し、その際、当該確認訴訟に係る  
訴訟の総費用を債権者に負担させた事例」

最高裁平成16年3月25日第一小法廷判決

私法判例リマークス31号 110頁（2005年7月）

「動産差押えと債務者の占有」

最高裁昭和34年8月28日第二小法廷判決

別冊ジュリスト177号『民事執行・保全判例百選』  
122頁（2005年8月）

別冊ジュリスト208号『民事執行・保全判例百選〔第2版〕』  
96頁（2012年3月）

「時機に後れた攻撃防御方法の提出」

最高裁昭和46年4月23日第二小法廷判決

別冊ジュリスト201号『民事訴訟法判例百選〔第4版〕』  
98頁（2010年10月）

「転付命令(3)——執行抗告提出期限後の執行停止決定の提出」

① 東京高裁昭和56年12月11日決定 ② 東京高裁昭和57年3月15日決定

別冊ジュリスト247号『民事執行・保全判例百選〔第3版〕』  
128頁(2020年1月)

### コンメンタール

「第92条 秘密保護のための閲覧等の制限」

『基本法コンメンタール 新民事訴訟法1』

〔別冊法学セミナー152号〕189頁(1997年11月)

『基本法コンメンタール 新民事訴訟法1〔第2版〕』

〔別冊法学セミナー178号〕197頁(2003年3月)

『基本法コンメンタール 民事訴訟法1〔第3版〕』

〔別冊法学セミナー197号〕222頁(2008年5月)

『基本法コンメンタール 民事訴訟法1〔第3版追補版〕』

〔別冊法学セミナー212号〕222頁(2012年3月)

「第293条 附帯控訴」(水野五郎と共著)

『基本法コンメンタール 新民事訴訟法3』

〔別冊法学セミナー155号〕22頁(1998年4月)

『基本法コンメンタール 新民事訴訟法3〔第2版〕』

〔別冊法学セミナー180号〕23頁(2003年5月)

『基本法コンメンタール 民事訴訟法3〔第3版〕』

〔別冊法学セミナー195号〕31頁(2008年1月)

『基本法コンメンタール 民事訴訟法3〔第3版追補版〕』

〔別冊法学セミナー214号〕31頁(2012年3月)

“Nr. 27 Teilklage und Umfang der Verjährungsunterbrechung”

“Nr. 34 Die Markierung von Bäumen als Publizitätsmaßnahme”

“Nr. 37 Zur Zulässigkeit einer auf dem petitorischen Anspruch beruhenden  
Widerklage gegen eine Besitzschutzklage”

“Nr. 38 Grundeigentumsrecht und vorbeugender Unterlassungsanspruch”

“Nr. 42 Geltendmachung des dinglichen Surrogationsanspruchs durch den  
Vorzugsberechtigten gemäß § 304 Minpō nach der Konkurseröffnung des  
Schuldners”: U. Eisenhardt, M. Ishibe, T. Isomura, Z. Kitagawa, H. G. Leser,

J. Murakami, H.-P. Marutschke (Hrsg.), Gesamtredaktion, H.-P. Marutschke  
Allgemeiner Teil und Sachenrecht: In deutscher Übersetzung mit  
rechtsvergleichenden Kommentierungen Japanisches Recht, Japanische  
Rechtsprechung Bd. 2, Japanische Entscheidungen zum Bürgerlichen Recht  
I (Carl Heymanns) S.212, S.255, S.270, S.274, S.298 (2004年 5月)

## 翻 訳

「法規の過剰化現象にいかに対処すべきか

——西独連邦司法省の資料の解題と翻訳——」(石川明と共訳)

法学研究60巻11号 114頁 (1987年11月)

ハンス・ブリュッティング

「民事訴訟における裁判官の指摘義務」(石川明と共訳)

法学研究61巻 9号 20頁 (1988年 9月)

ディーター・ライポルド〈講演〉

「民事訴訟はいかにして促進されうるか?

——一九七六年の西ドイツ簡素化法の経験——」(石川明と共訳)

判例タイムズ680号 4頁 (1989年 1月)

「連邦憲法裁判所判例の民事訴訟法に及ぼす影響」

ペーター・アーレンス著/松本博之、吉野正三郎編訳

『ドイツ民事訴訟の理論と実務』

(信山社) 131頁 (1991年 4月)

ゲルハルト・リュッケ

「ドイツ民事訴訟法における仮の権利保護の現代的諸問題」

法学研究64巻 8号 69頁 (1991年 8月)

ハンス・ハニッシュ

「ドイツにおける判例および立法による国際倒産法の改正」

法律時報65巻 2号 66頁 (1993年 2月)

ディーター・ライポルド

「ドイツ民事訴訟法における最新の法改正及び法改正計画」

法学研究66巻 5号 46頁 (1993年 5月)

マンフレッド・レービッシュ

「ドイツにおける法曹養成」

立命館法学227号 73頁 (1993年 7月)

コスタス・E・ベイズ

「ギリシア民事訴訟法に及ぼすEC法の影響」

立命館法学227号 83頁 (1993年7月)

トーマス・ヴェルテンベルガー

「ドイツの憲法秩序の下における法治国家原理」(鳥居喜代和と共訳)

畑中和夫、T・ヴェルテンベルガー編著

『現代法治国家論』〔国際比較法シリーズ〕

(晃洋書房) 43頁 (1994年11月)

ディーター・ライポルト

「国際民事訴訟法の問題としての懲罰的損害賠償」

立命館法学236号 158頁 (1994年12月)

ボルフガング・リュケ

「主観的な訴訟手続の集中方法としての第三者参加」

立命館法学236号 185頁 (1994年12月)

マンフレート・レーヴィッシュ

「EC労働法概説——ドイツ労働法を中心として」

M・レーヴィッシュ、西谷敏著

『比較労働法——日本・ドイツ・EC——』〔国際比較法シリーズ〕

(晃洋書房) 43頁 (1995年4月)

ディーター・ライポルト

「現代民事訴訟における口頭主義と書面主義」

立命館法学254号 156頁 (1997年12月)

ディーター・ライポルト

「民事訴訟における国内法と国際法の相互作用」(水野五郎と共訳)

立命館法学255号 296頁 (1998年2月)

ロルフ・シュトゥルナー

「ドイツおよびヨーロッパの民事訴訟の構造——分析と改革予想——」

民事訴訟法学会編『1997年民事訴訟法学会国際シンポジウム

民事訴訟法・倒産法の現代的潮流』

(信山社) 50頁 (1998年4月)

ディーター・ライポルト

「ドイツ新倒産法による免責および消費者倒産」(水野五郎と共訳)

法学研究71巻5号 69頁 (1998年5月)

葉秋華

「中国の法学教育体制」(永井美佐子と共訳)

立命館法学259号 163頁 (1998年12月)

ゴルフガング・リュケ

「公法と倒産法の交錯——破産における環境責任を事例として——」

立命館法学264号 159頁 (1999年9月)

トーマス・ヴェルテンベルガー

「専門教育 (Ausbildung)、教育 (Bildung) 及び研究 (Forschung) の  
改革に関する10のテーゼ」(野田将人と共訳)

立命館法学265号 197頁 (1999年10月)

ゴルフガング・リュケ

「国際倒産法『グローバル経済における変遷と変革』」(本間学と共訳)

立命館法学268号 341頁 (2000年3月)

ペーター・クットナー

「不法行為法、損害賠償および不法死亡」(本間学と共訳)

立命館法学276号 239頁 (2001年9月)

エーバハルト・シルケン

「ドイツ民事訴訟法による外国法の調査について」(本間学と共訳)

立命館法学276号 252頁 (2001年9月)

ペーター・ゴットバルト

「欧州新秩序前におけるドイツ国際倒産法」

立命館法学277号 286頁 (2001年10月)

ペーター・ゴットバルト

「ドイツにおける民事司法改革への努力」(本間学と共訳)

立命館法学277号 301頁 (2001年10月)

ディーター・ライボルト

「新ヨーロッパ証拠法」(本間学と共訳)

立命館法学286号 154頁 (2003年3月)

ペーター・ゴットヴァルト

「比較民事訴訟法」(工藤敏隆と共訳)

立命館法学299号 581頁 (2005年6月)

ペーター・ゴットヴァルト

「ヨーロッパ民事訴訟法」(工藤敏隆と共訳)

立命館法学299号 600頁 (2005年6月)

ペーター・ゴットヴァルト

「国際民事訴訟法の現状について」(本間学と共訳)

立命館法学299号 646頁 (2005年6月)

マルセル・シュトルメ

「カテドラル創建者の夢——ヨーロッパ民事訴訟手続の統一——」

(生田美弥子と共訳)

立命館法学299号 661頁 (2005年6月)

ルペルト・シヨルツ

「欧州連合の機関および権限」(本間学と共訳)

立命館法学305号 185頁 (2006年6月)

ユルゲン・シュヴァルツェ

「欧州連合の発展——共通市場から政治統合へ——」(工藤敏隆と共訳)

立命館法学306号 268頁 (2006年8月)

マンフレッド・レービッシュ

「ドイツにおける新債務法」(本間学と共訳)

立命館法学312号 191頁 (2007年8月)

ディーター・ライボルド

「ヨーロッパ民事法および民事手続法の最新の動向」(本間学と共訳)

立命館法学313号 210頁 (2007年9月)

ヨハイム・ミュンヒ

「前提問題の確認可能性——国内法へのヨーロッパの影響? ——」

(本間学と共訳)

立命館法学314号 213頁 (2007年12月)

マルセル・シュトルメ

「はじめに」

ハンス・ブリュッテリング

「ドイツ民事訴訟法の国際的源流」(本間学と共訳)

ロイック・カディエ

「フランス民事訴訟の国際的法源」(生田美弥子と共訳)

マルセル・シュトルメ

「おわりに」

松本博之、出口雅久編『民事訴訟法の継受と伝播』  
(信山社) 1頁、121頁、133頁、379頁 (2008年2月)

ヴァルター・レヒベルガー

「フランツ・クラインの思想とそのヨーロッパにおける  
民事訴訟法の展開に対する意義」(本間学と共訳)

立命館法学320号 222頁 (2009年1月)

ヴァルター・レヒベルガー

「オーストリア仲裁法の改革」(本間学と共訳)

立命館法学320号 237頁 (2009年1月)

「民事訴訟はいかにして促進されるか? ——1976年のドイツ簡素化法の経験——」

ディーター・ライボルト著/松本博之編訳  
『実効的権利保護 訴訟による訴訟における権利保護』  
(信山社) 125頁 (2009年1月)

ハイモ・シャック

「ヨーロッパ国際民事手続法の今日的展開と問題」(本間学と共訳)

立命館法学323号 91頁 (2009年6月)

ルチュウス・ビルトハーバー

「様々な角度からみた欧州人権裁判所」(西本健太郎と共訳)

立命館法学323号 222頁 (2009年6月)

ゲオルグ・ヴィツェル

「公海上における海上部隊によるテロ対策・海賊対策活動について  
——「公海自由の原則」と安全のはざまで」(田口絵美と共訳)

立命館法学326号 337頁 (2010年1月)

アレッシュ・ガーリック

「伝播、連続性そして変革の間でのスロベニア民事訴訟法」(本間学と共訳)

立命館法学326号 358頁 (2010年1月)

レーモ・カポーニ

「訴訟法の継受と伝播——“無境界的”客体についての一考察」  
(小西菜穂子と共訳)

立命館法学326号 434頁 (2010年1月)

ルードルフ・ティーネル

「欧州司法裁判所（欧州連合司法裁判所）の組織と機能  
——特に先決裁定（preliminary rulings）手続を中心に——」  
（木下雄一と共訳）

立命館法学331号 378頁（2010年10月）

ヴォルフガング・ティールゼ

「ドイツ再統一の20年——回顧と総括」（荒西麻記子と共訳）

立命館法学335号 425頁（2011年6月）

ヨハネス・ハーガー

「ドイツ消費者保護の基礎」（本間学と共訳）

立命館法学342号 413頁（2012年8月）

ハンス・ブリュッティング

「ドイツ弁護士法における最近の展開動向」（本間学と共訳）

立命館法学342号 469頁（2012年8月）

ロイク・カディエ

「フランス民事司法制度・民事訴訟法概論」  
（監訳を担当。橋本聡と工藤敏隆の共訳）

立命館法学343号 757頁（2012年10月）

ハンス・ユルゲン パピア

「基本権と法治国家性」

立命館法学344号 556頁（2012年12月）

ルベルト・ショルツ

「ドイツから見た今日の欧州連合」（山田香織と共訳）

立命館法学353号 285頁（2014年6月）

トーマス・ズッター＝ゾム

「新スイス民事訴訟法典」（本間学と共訳）

立命館法学353号 294頁（2014年6月）

ディーター・ライポルト

「調停，メディエーション，民事訴訟」

立命館法学353号 324頁（2014年6月）

ディーター・ライポルト

「トルコ民事訴訟法改正——ドイツから見た若干の考察——」

立命館法学353号 376頁（2014年6月）

ハカン・ペクチャニテス

「トルコ強制執行法・開始手続」

立命館法学353号 386頁（2014年6月）

ディーター・ライポルド

「トルコにおける強制執行に関する開始手続

——ドイツから見た若干の比較法的な考察——」

立命館法学353号 396頁（2014年6月）

「ドイツにおける弁護士の現在」

ペーター・ゴットバルト著/二羽和彦編訳

ゴットバルト教授日本講演録『ドイツ・ヨーロッパ民事手続法の現在』

（中央大学出版部）55頁（2015年10月）

ペーター・ゴットヴァルト

「ドイツにおけるメディエーション」

松本博之先生古稀祝賀論文集『民事手続法制の展開と手続原則』

（弘文堂）83頁（2016年4月）

ヘルベルト・ロート

「既判力に関する実体法説と訴訟法説」

法学研究89巻6号 97頁（2016年6月）

ペーター・ゴットバルト

「ドイツにおける動産執行」

法学研究91巻5号 49頁（2018年5月）

2021年立命館大学法学部国際シンポジウム

「スポーツ仲裁と人権保障」

立命館法学397号 357頁（2021年10月）

ヴォルフ・ディートリッヒ・ヴァルカー〈講演〉

「ドイツ強制執行法における効果的な権利保護」（内山衛次と共訳）

法と政治72巻3号 211頁（2021年11月）

## その他

「一九九三年立命館・フライブルク大学連続講演会」

立命館法学236号 156頁（1994年12月）

『消費者法の国際化』(編集委員として参加)

長尾治助、中坊公平編集代表  
(日本評論社) (1996年7月)

「ドイツの弁護士事情」

春秋会会報61号 34頁 (1999年)

「国際貢献型〈地球市民法曹〉養成プログラムによる中国出張について」

立命館ロー・ニューズレター No.40 23頁 (2005年3月)

「特集 日本にとってのドイツ法学とは? (1) 民事法の場合

民事訴訟法からのコメント」

民商法雑誌132巻 4・5号 549頁 (2005年8月)

「2006年国際訴訟法学会 (IAPL)・京都大会について」

立命館ロー・ニューズレター No.47 7頁 (2006年12月)

「二〇〇六年国際訴訟法学会 (IAPL)・京都大会について」

民事訴訟雑誌53号 236頁 (2007年3月)

「ドイツ連邦共和国功労十字勲章小綬章を受賞して」

立命館ロー・ニューズレター No.48 4頁 (2007年3月)

「第13回世界訴訟法会議」

立命館ロー・ニューズレター No.51 13頁 (2007年12月)

「第一三回世界訴訟法会議」

民事訴訟雑誌54号 224頁 (2008年3月)

「中国人民大学、中国政法大学、精華大学訪問と蘭州・中国民事訴訟法学会研究会参加」

立命館ロー・ニューズレター No.55 6頁 (2008年12月)

「はじめに」

「立命館大学法学会主催・国際シンポジウム EU 統合と人権保障」

立命館法学323号 117頁 (2009年6月)

「『私たちの法整備支援〜ともに考えよう! 法の世界の国際協力』

シンポジウムに参加しての感想」

ICD NEWS 41号 16頁 (2009年12月)

「はじめに」

「国際シンポジウム・民事手続法の継受と伝播」

立命館法学326号 348頁 (2010年1月)

“Einleitung” “Schlusswort”: Internationale Tagung 2009 zur „Rezeption und Transmission des Zivilverfahrensrechts“ an der Ritsumeikan Law School am 27.03.2009 Kyoto in Japan, Ritsumeikan Law Review No.27 p.113, p.215 (2010年3月)

「本学名誉法学博士 ベーター・ハナウ教授（ケルン大学元学長）

日本国政府より旭日重光章を受勲」

立命館ロー・ニューズレター No.60 16頁（2010年3月）

「ラオス法整備支援・現地ワークショップに初めて参加して」

ICD NEWS 44号 70頁（2010年9月）

「はじめに」

「日韓比較民事訴訟法研究会」

立命館法学331号 406頁（2010年10月）

“Introduction”: Ritsumeikan University, LMU Munich, DAAD Joint Seminar on European Law 2010 with Seoul National University, Nanjing University, National Chengchi University, Chung Ang University organized by Ritsumeikan Law Association, Ritsumeikan Law Review No.28 p.221（2011年6月）

「『日独交流150周年記念』国際シンポジウムの開催」

立命館ロー・ニューズレター No.66 16頁（2011年9月）

「2011年前期サバティカルと国際学術交流」

立命館ロー・ニューズレター No.69 8頁（2012年6月）

「はじめに」

「比較民事訴訟セミナー」

立命館法学342号 435頁（2012年8月）

「はじめに」

「日独交流150周年記念特別講演会」

立命館法学344号 540頁（2012年12月）

「はじめに」

「立命館大学ヨーロッパ法セミナー『フランスにおける法曹倫理』」

立命館法学347号 656頁（2013年6月）

「国際訴訟法学会ギリシャ・アテネ大会報告」

立命館ロー・ニューズレター No.75 17頁 (2013年12月)

“Preface to the Contributions by Professor Dr. Dres. h. c. Rolf Stürner,  
Freiburg” Special Lectures of the 70th Anniversary of the End of World  
War II: Ritsumeikan Law Review No.33 p.71 (2016年6月)

「はじめに」

「戦後70周年記念特別講演会」  
立命館法学365号 355頁 (2016年6月)

„Juristentreffen der Deutschland Alumni des ostasiatischen Fachnetzwerkes  
für Rechtswissenschaft“: 立命館ロー・ニューズレター No.83 8頁 (2017年  
6月)

「ストラスブール大学法学部での講演会」

立命館ロー・ニューズレター No.85 10頁 (2018年6月)

International Symposium on the topic: “Europe and Asia as a Legal: Area for  
Peace, Fundamental Rights, Democracy and the Rule of Law”: 立命館ロー・  
ニューズレター No.87 10頁 (2019年6月)

#### 報告・講演

報告「日本法におけるいわゆる選定当事者と代表訴訟」(ドイツ語)

日本ギリシャ民事訴訟法シンポジウム  
1994年9月(於:ギリシャ・シロス島)

報告「日本民事訴訟法の改正」(英語)

国際訴訟法会議  
1999年5月(於:ブラジル・レシフェ)

報告「日本における双務未履行の契約」(ドイツ語)

日独倒産法シンポジウム  
2000年9月(於:ドイツ・ドレスデン工科大学法学部)

出口雅久教授 略歴・主な業績

- 報告「立命館大学法科大学院におけるグローバル法曹養成」(日本語)  
高級法律人材養成・中国・韓国・日本法学教育改革シンポジウム  
2004年10月(於:中国・海口)
- 報告「Legal Education for Global Citizen Lawyers in the Global Society」(英語)  
国際訴訟法学会(IAPL)京都大会  
2006年9月(於:日本・立命館大学)
- 報告「The recent legislation on the consumer group action in Japan」(英語)  
リトアニア大学法学部国際シンポジウム  
2007年4月(於:リトアニア)
- 講演「日本の消費者団体訴訟」(ドイツ語)  
トルコ・イスタンブール大学法学部およびマルマラ大学法学部  
2007年5月(於:トルコ)
- 講演「日本の消費者団体訴訟について」(ドイツ語)  
フィレンツェ大学法学部  
2008年3月(於:イタリア)
- 講演「Das Spannungsverhältnis im Zivilprozessrecht」(ドイツ語)  
レーゲンスブルク大学法学部・日独協会共催講演会  
2008年6月(於:ドイツ)
- 講演「日本民事訴訟法の継受と伝播」(日本語)  
中国人民大学法学部  
2008年9月(於:中国・北京)
- 講演「日本民事訴訟法の改革状況」(日本語)  
中国民事訴訟法研究会  
2008年9月(於:中国・蘭州)
- 報告「日本の民事調停制度」(日本語)  
ADR 国際シンポジウム  
2008年11月(於:中国・北京)
- 報告「提訴前情報収集と紛争解決」(ドイツ語)  
ミュンヘン大学法学部  
2010年3月(於:ドイツ)
- 講演「提訴前情報収集と紛争解決」(ドイツ語)  
ブタペスト大学法学部  
2010年11月(於:ハンガリー)

- 報告「日本の督促手続」(ドイツ語)  
中央欧州公証法学会  
2010年11月 (於: ハンガリー・ビシェグラート)
- 報告「電子訴訟について」(ドイツ語)  
上海交通大学法学院・北東アジア民事訴訟法研究会  
2010年11月 (於: 中国・上海)
- 講演「日本民事訴訟法の継受と伝播」(英語)  
中国人民大学法学院  
2011年6月 (中国・北京)
- 報告「Die doppelte Aktionärsklage in Japan」(ドイツ語)  
Fritz Thyssen Stiftung 国際シンポジウム  
2015年9月 (於: ドイツ・ケルン)
- 講演「日本民事訴訟法の継受と伝播」(英語)  
天津財経大学  
2017年11月 (於: 中国・天津)
- 講演「日本民事訴訟法の継受と伝播」(英語)  
ストラスブール大学法学部  
2018年3月 (於: フランス)
- 報告「日本最高裁判所の裁判官の任命手続」(英語)  
アデナウアー財団・国際シンポジウム  
2018年6月 (於: ベトナム・ハノイ)
- 講演会「日本における付調停手続」(英語)  
マドリード大学法学部  
2018年10月 (於: スペイン)
- 報告「医療過誤訴訟の問題点」(ドイツ語)  
国立政治大学法学院  
2018年12月 (於: 台湾)
- 報告「Current status and problems of Online Dispute Resolution (ODR)」  
(英語)  
ブラジル・ポルト・アレグレ・国際訴訟法学会  
2021年10月 (オンライン報告)

出口雅久教授 略歴・主な業績

- 報告「オンライン審理と訴訟原則」「法定審理期間訴訟手続」(ドイツ語)  
ドイツ・トルコ大学法学部 トルコ・ドイツ・日本国際シンポジウム  
2023年11月 (於:トルコ・イスタンブール)
- 講演「日本の最高裁判所の役割」(英語)  
ライデン大学法学部・最高裁判所比較セミナー  
2024年2月 (於:オランダ)
- 報告「Online-Verfahren und Prozessmaximen」(ドイツ語)  
独日法律家会議  
2024年2月 (於:ドイツ・デュッセルドルフ)
- 講演「日本の最高裁判所の役割」(英語)  
ケルン大学法学部欧州人権擁護アカデミー  
2024年2月 (於:ドイツ)
- 講演「オンライン審理と訴訟原則」(ドイツ語)  
台湾国立政治大学法学院  
2024年3月 (於:台湾)
- 講演「法定審理期間訴訟手続」(ドイツ語)  
国立台湾大学法律学院  
2024年3月 (於:台湾)
- 講演「日本の最高裁判所の役割」(英語)  
国際台湾中央大学法律與政府研究所  
2024年3月 (於:台湾)
- 講演「オンライン審理と訴訟原則」(日本語)  
台湾司法院  
2024年3月 (於:台湾)
- 講演「オンライン審理と訴訟原則」  
トリア大学法学  
2024年7月 (於:ドイツ)
- 講演「オンライン審理と訴訟原則」(ドイツ語)  
ザーラント大学法学部  
2024年7月 (於:ドイツ)
- 講演「法定審理期間訴訟手続」(英語)  
ワルシャワ大学法学部  
2024年10月 (於:ポーランド)